横須賀市健康増進計画（第 3 次）・横須賀市食育推進計画（第 2 次）中間評価のまとめ

（１） 生活習慣病の発症予防と重症化予防

【がん】

項　　目	策定時	中間値	目標値 (H34 年度)	評価
75 歳未満のがんの年齢調整死亡率 （10 万人あたり）	86.6	76.6	73.9	○

＜中間評価＞

計画策定時の基準値と比較すると、75 歳未満のがんの年齢調整死亡率は減少していますが、依然として、がん（悪性新生物）は死因別死亡率が最も多くなっています。

予防、診断、治療等を総合的に推進していくとともに、早期発見を促すため、引き続きがん検診の受診を促進していく必要があります。

１　現状と課題

・本市の 75 歳未満年齢調整死亡率は 76.6 で目標は達成できませんでしたが数値の改善が認められます。

・策定時は全国より高い値でしたが今回の調査では全国より低い値となっています。

・国の進捗状況中間評価では、78.0 と改善したものの、「数値の改善を認めるが目標値は達成できなかった」としています。

・「年に１回は健康診断を受けている」成人の割合は 71.4％で、策定時の 70.2％からわずかに上昇しています。

・がんの重症化を防ぐには、早期発見、早期治療が有効であることから、検診受診の手続きの簡便化、効果的な受診勧奨方法の検討、職域におけるがん検診との連携など、より効率的・効果的な取り組みを検討していく必要があります。

２　これまでの取り組み

・「がん検診受診率 50％達成に向けた集中キャンペーン」としてポスターを作成し市内の医療機関、コミュニティセンター、行政センター、老人福祉センター等に掲示しました。
・市民向け講演会を行いました。
・乳がん、子宮頸がん検診のクーポンを発行し、さらに未受診者へは再交付を行い受診を促しました。
・ホームページ、スカリブに市民健診の案内を掲示しました。

３　今後の評価指標・目標値

「75 歳未満のがんの年齢調整死亡率」は、目標に達していないため、目標値は変更しません。

【循環器疾患・糖尿病】

項　　目		策定時	中間値	目標値 (H34年度)	評価
脳血管疾患年齢調整死亡率	（男性）	48.5	34.3	41.6	◎
	（女性）	28.6	16.9	24.7	◎
虚血性心疾患年齢調整死亡率	（男性）	34.9	27.3	31.8	◎
	（女性）	12.4	8.2	減少	◎
メタボリックシンドロームの予備群・該当者の割合（40歳～74歳）		25.7%	27.3%	20%以下	×
糖尿病及び予備群と考えられる人の割合（40歳～74歳）		10.3%	10.7%	10%以下	△
高血圧及び予備群と考えられる人の割合（40歳～74歳）		39.4%	40.1%	30%以下	△
脂質異常症及び予備群と考えられる人の割合（40歳～74歳）		26.2%	29.5%	25%以下	×

＜中間評価＞

脳血管疾患年齢調整死亡率、虚血性心疾患年齢調整死亡率の減少は、医療の発達による全国的傾向といわれる一方で、これらの疾病の発症の危険因子を持つメタボリックシンドロームの予備群・該当者の割合や高血圧及び予備群と考えられる人の割合は増加しています。

また、糖尿病及び予備群と考えられる人の割合も増加しており、生活習慣の改善を促すとともに重症化を予防していく必要があります。

1　現状と課題

・今回の調査で脳血管疾患・虚血性心疾患年齢調整死亡率は全て目標を達成しています。

・国の進捗状況中間評価では脳血管疾患の年齢調整死亡率は男性31.3、女性21.0、虚血性心疾患の年齢調整死亡率は男性31.3、女性11.7と目標を達成し「改善している」と評価しています。

・また、国の進捗状況中間評価では、死亡率の低下には急性期治療の進歩などの臨床的な要因が関与し、時代が進むほど年齢調整により低下しやすくなる可能性があることから「予防対策の効果だけで達成されたわけではない」としています。

・メタボリックシンドロームの予備群・該当者の割合、糖尿病・高血圧・脂質

異常症及びこれらの予備群と考えられる人の割合は全て増えています。

・国の進捗状況中間評価では高血圧の実績値は順調に低下しており「改善している」その他メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症は「変わらない」としています。

・本市の特定健康診査（40～74 歳）の受診率は国民健康保険被保険者では男性 25.9%女性 32.3%です。平成 22 年度の 21%から上昇しています。また、特定保健指導実施率も男性 15.9%女性 18.5%と H22 年度の 9%から上昇しています。

・今後は、特定健診・特定保健指導実施率、特定保健指導の実施率を毎年把握していく必要があります。

・生活習慣病の予防は市民の健康の保持だけではなく、治療に要する医療費の減少につながることから生活習慣病対策の推進は重要な課題といえます

２　これまでの取り組み

・集団健診の休日健診を開催しました。

・集団健診の結果説明会を開催しました。

・スマートダイエット教室を開催しました。

・健康相談を開催しました。

・人間ドックにかかる費用を一部助成しました。

・データヘルス計画を策定しました。

・勤務先での健康診断結果で記念品を贈呈しました。

３　今後の評価指標・目標値

・「脳血管疾患年齢調整死亡率」「虚血性心疾患年齢調整死亡率」は、目標に達しているとともに、国の進捗状況中間評価より良好であることから、中間値を新たな目標値とします。

・「メタボリックシンドロームの予備群及び該当者の割合」「糖尿病及び予備群と考えられる人の割合」「高血圧及び予備群と考えられる人の割合」「脂質異常症及び予備群と考えられる人の割合」は、いずれも目標に達していないため、目標値は変更しません。

（２）健康を支え、守るための社会環境の整備

【健康づくりを目的としたネットワーク】

項　　目	策定時	中間値	目標値 (H34 年度)	評価
食生活改善推進員の数	36 人	56 人	86 人以上	○
ラジオ体操を指導できる人数 （ラジオ体操サポーターの人数）	0 人	626 人	200 人以上	◎

＜中間評価＞

食生活改善推進員は増加、ラジオ体操を指導できる人数（ラジオ体操サポーターの人数）は 626 人となりました。地域で健康づくり活動をする人は増加しており、今後はさらにネットワークを生かして、地域のニーズや実情に応じた自主的な健康づくり活動を広げていくための支援をしていく必要があります。

１　現状と課題

・食生活改善推進員の数は 36 人から 56 人に増加していますが、目標の 86 人には達していません。

・ラジオ体操を指導できる人数（ラジオ体操サポーターの人数）は、626 人と目標の 200 人を大きく上回っています。

・食と運動のボランティアである食生活改善推進員（以下ヘルスメイト）は、年１回養成講座を開催していますが、高齢等の理由で退会する人もいます。まだ目標数には達していませんが、会員数は着実に増加しています。

・ラジオ体操サポーターは、「ラジオ体操の良さを地域や職場で広める活動をするボランティア」で、年３回養成講座を開催してきました。市民の関心も非常に高く、人数は増加しており、地域でのラジオ体操グループの立ち上げや、市の事業のお手伝い等に貢献しています。

２　これまでの取り組み

・食と運動のボランティアである食生活改善推進員（ヘルスメイト）の養成講座、フォーローアップ研修を実施しました。

・ラジオ体操の良さを地域や職場に広めるボランティアであるラジオ体操サポーターを養成しました。

・ラジオ体操を始めるきかっけづくりやモチベーションアップのため、地域イ

ベント型ラジオ体操講座を開催しました。

・小学生とその保護者向けのラジオ体操新聞を作成し、市内全小学校を通じて配布したり、市民向けのラジオ体操かわら版を作成し、市内全町内会、自治会で回覧しました。

・介護予防サポーターの養成とフォローアップ研修を実施しました。

・地域からの依頼や地域包括支援センターによる介護予防に関する講座の実施や、各コミュニティセンターとの連携で、生涯現役講座を開催しました。

・プレママ・プレパパ教室や妊産婦サロンなど妊産婦、母親同士の交流を図り、仲間づくりの機会としました。

・生涯学習センターで開催する市民大学において、健康に関する講座を実施しました。

・体育の日に開催するスポーツフェスタや小学校の新体力テストなどに、スポーツ推進委員を派遣しました。

３　今後の評価指標・目標値

・「食生活改善推進員の数」は、目標を達成していないため、変更しません。

・「ラジオ体操を指導できる人数（ラジオ体操サポーターの人数）」については、地域ごとのニーズに応じた、きめ細かい育成方法に転換するため、評価指標から削除します。

・ラジオ体操については「地域で日頃からラジオ体操に取り組む団体数」を、新たな指標とします。（平成 29 年 7 月 18 日現在　77 団体）

（３）食文化の理解と食生活の改善

【食育】

項　　目	策定時	中間値	目標値 （H34 年度）	評価
食育に関心を持っている市民の割合	69.5%	70.5%	80%以上	△
学校給食における地場産物を使用する割合(食材料ベース)統一献立による使用率	13.2%	15.4%	13.2% 以上	◎
「よこすかＥ表示協力店」「よこすかＥ表示情報発信店」数	17 店	105 店	330 店	○
栄養成分表示が必要だと思う市民の割合	65%	54.1%	75%以上	×
食品ロスの削減に取り組んでいる人の割合	-	62.5%	-	-

＜中間評価＞

学校給食における地場産物を使用する割合は増加しています。また「よこすかＥ表示協力店」「よこすかＥ表示情報発信店」数についても増加しています。しかし、食育に関心を持っている市民の割合は横ばい、栄養成分表示が必要だと思う市民の割合については減少しています。

食育に関する環境整備は進んでいますが、食育や食に対する意識が伸び悩んでおり、食育に関する啓発や、エネルギーや塩分量などを食品等に記載した栄養成分表示を活用するなど食を通じた生活習慣病予防を行う必要があります。

１　現状と課題

・「食育」に関心を持っている人の割合として、未就学児・小学生の保護者は、「関心がある」の割合が 80%以上と高くなっていますが、成人の女性が 70%台、男性は 40%～50%台と低い数値となっています。

・「食育」は子どもだけのものと思われがちなので、幅広い年代に向けて食育の必要性をアプローチしていく必要があります。

・学校給食における地場産物を使用する割合として、目標達成はしていますが、気候などにより出荷量が左右されるため、児童数分の食材確保が難しいと考えられます。

・「よこすかＥ表示協力店」「よこすかＥ表示情報発信店」数は目標値の約 30%を達成しています。また今年度から、普及に向けた取り組み方法を見直し、

新規店舗の増加を目指しています。

・栄養成分表示が必要だと思う市民の割合として、40 歳～69 歳までの女性以外は、低い割合になっています。特に 70 歳~79 歳までは、男女とも「必要だと思う」の割合が 40%台とより低くなっています。

・食品ロスの削減に取り組んでいる人の割合は、女性の方が男性に比べて意識が高いことがわかります。特に 40 歳~79 歳までの女性は、取り組んでいることが「ある」が 70%を超える割合となっています。また、取り組んでいる内容は、男女とも「買い過ぎない」「食材を使いきる」が多くみられました。

２　これまでの取り組み

・園児を対象とした食育パフォーマンスの実施や、給食時に保育士等による食指導や共食を実施しています。

・園内菜園を実施し、自分たちで作ったものを食べるという体験をしています。

・手軽に食事作りができるよう、乳幼児期のレシピをスカリブに掲載したり、離乳食の作り方を動画（よこすかムービーチャンネル）で情報発信しました。

・食文化への理解をすすめるための食育推進講習会を実施しました。

・市民向けの外食の栄養成分表示を上手に活用するための教室や、飲食店における栄養成分表示をすすめるための講演会などを実施しました。

・介護予防のための、シニアの小食の方のための栄養講座、地域からの依頼による講座を実施しました。

・給食時間の準備から後片付けまでの活動を通して、担任が計画的・継続的な指導を行うことにより、児童に望ましい食習慣と食に関する実践力を身につけるために「給食時間マニュアル」を作成して、市内全小学校に配布しました。

・市民に対し食の安全・安心について啓発するために、食品衛生講習会や食のセミナーを開催しました。

・体験型のイベントとして、小学 5.6 年生を対象に農業体験を年２回、小学生とその保護者を対象に親子酪農体験を年１回実施しました。

・平日の健康づくり教室に参加できない人を対象に休日に健康づくり教室を開催しています。

・ヘルスメイトよこすかに委託し、食文化の継承を伝える教室を実施しています。

３　今後の評価指標・目標値

・「学校給食における地場産物を使用する割合」は、目標に達しているため、15.4%以上とします。

・その他の項目については、目標に達していないため、目標値は変更しません。
・食品ロスの削減については、新たな評価指標に追加します。国と同様に目標値を 80%以上とします。（平成 28 年度食育推進施策より）

（４）健康の維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり

【栄養と食生活】

項　　目	策定時	中間値	目標 （H34 年度）	評価
肥満(ＢＭＩ25 以上)の割合(20～60 歳代男性)	26.2%	33.9%	25%以下	×
(40～60 歳代女性)	15.5%	16.4%	15%以下	△
適正体重(ＢＭＩ18.5 以上 25 未満)を維持する人の割合　(中学生・高校生)	60.1%	64.3%	増加	◎
(19 歳～59 歳)	69.9%	64.9%	75%以上	×
(69 歳～79 歳)	73%	70.9%	75%以上	×
１日３食食べる人(朝食を食べている人)の割合　(1 歳～18 歳)	93.4%	89.7%	95%以上	×
(19 歳～59 歳)	74.5%	73.4%	80%以上	×
食事バランスガイドなどを参考に食生活を送っている人の割合	25%	27.6%	50%以上	○

＜中間評価＞

全般的に、適正体重を維持している人の割合は減少する一方で、肥満の割合は増加しています。また、１日３食食べる人（朝食を食べている人）の割合は減少しています。一方で、食事バランスガイドなどを参考に食生活を送っている市民の割合は微増となっています。

食べ過ぎや欠食等の食生活の乱れは、健全な生活活動の営みを妨げます。そして、健康の保持・増進のために、栄養成分表示や食事バランスガイドなどを参考にしながら、望ましい食習慣を身につけるよう、啓発を行っていく必要があります。

１　現状と課題

・肥満(ＢＭＩ25 以上)の割合が男女ともに策定時より悪化しています。特に、19 歳~59 歳の男性が 30%を超えています。

・中学生は、「やせ」の割合が男性 50.7%、女性 37.8%と非常に高くなっていますが、高校生になると、「やせ」の割合は男性 9.3%、女性 18.2%と減少します。

・中学生・高校生は、「肥満」より「やせ」の割合が高くなっています。

・19 歳~39 歳までの女性の「やせ」は 16.4%と、成人女性の中では、一番高い割合になっています。
・60 歳~79 歳では「やせ」より「肥満」の割合が高くなっています。
・男性の朝食欠食率は 19 歳~39 歳が 37%、40 歳~59 歳が 31.8%とほかの年代と比較し高くなっています。
・高校生男性の朝食を「毎日食べる」の割合が 77.8%と、中学生の男性 86.6%に比べ約 10%低くなっています。
・成人が朝食を食べない理由として「食べる時間がない」が 37.3%、「食欲がない」が 22%、「食べる習慣がない」が 21.6%、「朝起きることができない」が 16%、となっています。
・1～18歳の朝食を食べている割合は低下しています。これは本人だけでなく、保護者の生活習慣に影響されることが大きいと考えます。

２　関連した取り組み

・乳幼児健診や各種教室などで、パンフレット等を活用し、バランスよく３食食べることの知識の普及を行いました
・成人向け、高齢者向けに主食、主菜、副菜を摂取することの必要性など、バランスよく食べることに重点を置いた各種健康教室を実施しました。
・高血圧、脂質異常症をテーマとし、病態別栄養教室を実施しました。
・ヘルスメイトよこすかに委託し、健康寿命の延伸を目的とした教室を実施しました。
・市民向けの外食の栄養成分表示を上手に活用するための教室や、飲食店における栄養成分表示をすすめるための講演会などを実施しました。
・よこすかＥ表示のポスター、チラシを作成しました。
・高齢者向けに小食の方のための栄養教室を実施しました。

３　今後の評価指標・目標値

ほとんどの項目が目標を達成していないため、目標値は変更しません。

【身体活動・運動】

項　　目	策定時	中間値	目標値 （H34 年度）	評価
生活活動の中で、運動量を高める工夫をしている人の割合	－	70.7%	70%以上	◎
習慣的に運動をしている人の割合 （1 回 30 分以上を週 2 回）　（成人男性）	49%	50.4%	50%以上	◎
（成人女性）	44.6%	41.4%	45%以上	×

＜中間評価＞

生活活動（通勤・買い物・掃除等）の中で、運動量を高める工夫をしている人の割合及び習慣的に運動（1 回 30 分以上の運動を週 2 日）している成人男性の割合は目標を達成しています。一方、成人女性における習慣的に運動している割合が減少しています。運動習慣を持つことは難しい状況もあることが考えられますが、日ごろの生活の中での身体活動を増やすなど、運動量を高めていく必要があります。

1　現状と課題

・「生活活動の中で、運動量を高める工夫をしている人」は 70.7%で目標を達成しています。

・40 代 50 代の男性は「していない」の割合が最も高く 20.5%でした。生活活動の中で運動量を高めることの必要性について、職域における普及啓発が必要と考えます。

・「習慣的に運動をしている人の割合」は男性は 50.4%と目標を達成していますが、女性は 41.4%と策定時より低下しています。

・「ほとんどしない」が 40 代 50 代で最も高く、男性 43.9%女性 45.3%でした。

・引き続き運動を始めるきっかけづくりとして、手軽に取り組めるラジオ体操やウオーキングの普及啓発に取り組んでいきます。

2　関連した取り組み

・階段利用促進ポスターをホームページに掲載し、庁舎内と協力機関のエレベーターに横に掲示し周知を図りました。

・ラジオ体操に取り組むきっかけづくりとなるよう、小学生とその保護者向けにラジオ体操新聞を作成、配布したり、全市民向けに「ラジオ体操かわら版」を作成し、市内全域に回覧しました。

・カレーフェスティバルと産業まつりの野外ステージで、元 NHK テレビ・ラジオ体操アシスタントを講師に招き、来場者と一緒にラジオ体操ワンポイントレッスンを開催しました。
・ウオーキングンの普及のため、インターバル速歩やノルディックウォーキング、歩き方などの講演会や講座を開催しました。
・学校体育館施設の地域住民への開放の実施や、幼児から高齢者までスポーツの機会を提供するための市民スポーツ教室を開催しました。
・介護予防と運動習慣の増進を目的として、高齢者体力づくり教室や関節らくらく教室などの各種教室を開催しました。
・生涯現役フォーラムでは、うつ予防やフレイル予防をテーマに講演会を開催しました。

３　今後の評価指標・目標値

・健康を維持するためには、運動習慣づくりは大切であるため「生活活動の中で、運動量を高める工夫をしている人の割合」と「習慣的に運動をしている人の割合（1 回 30 分以上を週 2 回）（成人男性）」は目標を達成しているため、目標値を上げます。
・「習慣的に運動をしている人の割合（1 回 30 分以上を週 2 回）（成人女性）」は目標値を達成していないため、目標値は変更しません。

【休養・こころの健康】

項　　目	策定時	中間値	目標値 （H34 年度）	評価
いつもの睡眠で休養が取れている人の割合	71.3%	70.2%	80%以上	×
自殺者数	97 人	80 人	60 人未満	○

＜中間評価＞

自殺者数は減少していますが、いつもの睡眠で、休養がとれていると思う人の割合は、減少しています。様々なストレスを抱えることが多く、こころの健康を保つためには、休養や十分な睡眠が大切であり、ストレスを抱え込まないよう、引き続き、生活リズムを整えることの重要性の啓発や相談窓口等の情報提供やこころの健康づくりに関する教室、サポート体制を充実していく必要があります。

１　現状と課題

・「いつもの睡眠で休養が取れている人の割合」は、71.3%から 70.2%に減少しています。

・「自殺者数」は、97 人から 80 人に減少していますが目標値の 60 人には達していません。

・「あまりとれていない」の割合が 40 歳~59 歳が男性 23.1%、女性 27.7%と高くなっています。

・睡眠を助けるために、睡眠剤等を飲むことは、60 歳~69 歳女性、70 歳~79 歳の男女とも、他の世代に比べると多くなっています。

・「自殺者数」は、平成 27 年の人口動態調における人数は 80 人で、年によって増減はありますが、全体としては減少傾向にあります。

・関係機関が連携した自殺対策の取り組みや、ゲートキーパー等の人材養成を継続していく必要があると思われます。

２　これまでの取り組み

・大学教授を招き、睡眠講演会を開催しました。

・すこやかんとの連携教室や地域からの依頼で講師を派遣する健康づくり教室の中で、休養の必要性、睡眠と生活習慣病との関連の話を取り入れました。

・認知症についての正しい理解のため、小学生以上を対象に、認知症サポーター養成講座を開催しました。

・うつ予防や介護者への心の支援のため、専門医によるもの忘れ相談や、認知

症高齢者介護者のつどいなどを開催しました。

・自殺予防週間や月間にあわせて実施する京急主要駅での街頭キャンペーンのほかに、横須賀特有の傾向である主婦の自殺予防を目的に、商店街等で街頭キャンペーンを実施しました。

・市内の相談窓口の一覧である「横須賀こころのホットライン」の冊子を作成し、街頭キャンペーンで配布するほか、中小企業、ハローワーク、生活保護相談窓口、市内全町内会長、自治会長に配布しました。

・ゲートキーパー養成講座とフォローアップ研修会を開催しました。

３　今後の評価指標・目標値

・「いつもの睡眠で休養がとれている人の割合」は、目標を達成していないので、変更しません。

・「自殺者数」は、目標に達していないため、目標値は変更しません。

（横須賀市基本計画・実施計画の目標値にもなっているため、整合性について検討が必要）

【喫煙】

項　　目	策定時	中間値	目標値 (H34 年度)	評価
喫煙率　（成人）	19.2%	16.4%	12%以下	○
（未成年）	2.9%	1.2%	0 に近づける	○
家庭での分煙率	69.8%	73.3%	80%以上	○

＜中間評価＞

喫煙率は減少、家庭での分煙率は増加しており、喫煙の健康リスクに対する意識が高まっています。喫煙は、がん、循環器疾患、糖尿病、ＣＯＰＤの危険因子であり、禁煙によりこれらを予防することが可能です。引き続き、喫煙が身体に及ぼす影響等の知識の普及を行うとともに、受動喫煙防止を推進していくことが重要です。

１　現状と課題

・成人の喫煙率は 19.2%から 16.4%と減少しています。また、未成年も同じく 2.9%から 1.2%に減少しています。

・家庭での分煙率は 69.8%から 73.3%と増加していますが目標の 80%以上には達していません。

・19 歳~39 歳、60 歳~69 歳の男性の喫煙の割合が、他と比べると 30%～35%と高くなっています。

・「タバコを吸い始めたのは何歳の時ですか」の問で 20 歳未満 34.8%、20～24 歳 57.8%でした。若い世代への「たばこの害」の普及啓発が必要です。

・喫煙者への「タバコをやめたいと思っていますか」の問に対して「近々」「いずれは禁煙しようと思っている」は合わせて 62.6%でした。やめたい人がいつでも禁煙できるような環境づくりが必要です。

・COPD については 53.5%が「知らない」と回答しています。COPD がどんな病気かよく知っている人を増やすことは、患者の受診行動を促すという観点から必要であり、今後も引き続き普及啓発に努めます。

・主流煙より副流煙の方が害があるので、副流煙の害についての普及啓発が必要だと思われます。

２　これまでの取り組み

・禁煙支援のための「スパッと卒煙教室」を開催しました。

・喫煙及び受動喫煙の害の知識の普及のため、市役所本庁舎１階展示コーナー

でのパネル、ポスター等の展示や、ショッピングセンターでの健康フェアの中で一酸化炭素濃度測定の体験等を実施しました。

・市内で希望のあった県立高校で、喫煙・受動喫煙の害についての健康教育を実施しました。

・横須賀中央駅付近の繁華街やゲームセンターなどで、警察官 OB による巡回指導を行い、青少年に対する声かけや指導を行いました。

・深夜に外出している青少年へ帰宅を促したり、喫煙・飲酒等を見かけたときに注意をするなどの協力をする青少年健全育成協力店を、様々な関係機関の協力を得て、順調に店舗数が増えています。

・学習指導要領に基づき、小学６年生の「病気の予防」、中学３年の「健康な生活と疾病の予防」の中で、喫煙、飲酒などについて、理解を深めました。

・母子健康手帳交付時や周産期の各種教室、こんにちは赤ちゃん訪問等の機会に喫煙・受動喫煙の害についての知識の普及をしました。

３　今後の評価指標・目標値

・いずれの項目も目標を達成していないので、変更しません。

【飲酒】

項　　目	策定時	中間値	目標値 (H34 年度)	評価
適正な飲酒量を知っている市民の割合	－	45.7%	50%以上	－
１日に平均で飲む量が中瓶３本以上の人の割合（男性）	13.5%	7.5%	10%以下	◎
（女性）	1.9%	3.6%	1.5%	×

＜中間評価＞

今回の調査で、適正な飲酒量を知っている市民の割合は 45.7%となっています。1 日に平均で飲む量が中瓶３本以上の人の割合は男性では減少したものの、女性では増加しています。適度な飲酒は心身に良い作用をもたらしますが、過度な飲酒は様々な健康被害を引き起こすため、引き続き、飲酒に対する正しい知識の普及啓発をしていく必要があります。

１　現状と課題

・適正な飲酒量を知る市民の割合は、45.7%となっており、目標の 50%には達していません。策定時の数値がないため、評価は不能となっています。

・１日に平均で飲む量が中瓶３本以上の人の割合は、男性は 13.5%から 7.5%と減少し、目標を達成しました。しかし、女性は 1.9%から 3.6%に増加しています。

・女性は、19 歳~39 歳、40 歳~59 歳が「中瓶３本以上」の割合が増えています。

・19 歳~69 歳までの男性は「中瓶３本以上」の割合が、10%台と高くなっています。

・女性の飲酒は、胎児や乳児の発育に影響を及ぼすことから、特に若い世代の飲酒については、注意する必要があります。

２　関連した取り組み

・生活習慣病のリスクを高める飲酒量や、適正飲酒の 10 か条をホームページに掲載し、普及啓発をはかりました。

・妊婦のための栄養教室や料理教室の中で、飲酒についての啓発を行いました。

・横須賀中央駅付近の繁華街などで、警察官 OB による巡回指導を行い、青少年に対する声かけや指導を行いました。

・学習指導要領に基づき、小学６年生の「病気の予防」、中学３年の「健康な生活と疾病の予防」の中で、喫煙、飲酒などについて、理解を深めました。

３　今後の評価指標・目標値

・「１日に平均で飲む量が中瓶３本以上の人の割合（男性）」は、目標を達成しているものの、再悪化の可能性もあるため、目標値は変更しません。

・「適正な飲酒量を知っている市民の割合」「１日に平均で飲む量が中瓶３本以上の人の割合（女性）」は目標を達成していないので、変更しません。

【歯・口腔の健康】

項　　目	策定時	中間値	目標値 （平成 34 年度）	評価
60 歳で自分の歯を 24 本以上持つ人の割合	73.9%	80.9%	75%以上	◎
12 歳以上の１人平均う歯数	1.04 歯	0.64 歯	1.0 歯未満	◎
過去１年間に歯科健診を受けた人の割合（成人）	37.5%	46.9%	50%以上	○

＜中間評価＞

60 歳で自分の歯を 24 本以上持つ人の割合、12 歳の１人平均う歯数については目標を達成し、過去１年間に歯科健診を受けた人の割合（成人）についても増加しています。

歯・口腔の健康は、食べる、話すといった面に限らず、生活の質に大きく関係しており、子どもの頃から歯科疾患の予防を行うとともに、8020 運動の推進等、歯・口腔の健康に取り組む必要があります。

１　現状と課題

・60 歳で自分の歯を 24 本持つ人の割合は 73.9%から 80.9%と増加しています。

・12 歳以上の１人平均う歯数は 1.04 歯から 0.64 歯に減少しています。

・過去１年間に歯科健診を受けた人の割合（成人）は、37.5%から 46.9%と増加していますが、目標には達していません。

・１日の歯磨きの回数については、成人は、男性より女性の方が「３回以上」「２回以上」の割合が高くなっています。

・歯間ブラシやデンタルフロスを使う割合も、男性に比べ女性の方が高くなっています。

・60 歳以上では、デンタルフロスより、歯間ブラシを使用する割合の方が高くなっています。

・定期的に歯科健診を受ける割合は、成人は男性より女性の方が割合が高くなっています。女性は概ね 50%を超えていますが、男性は 70 歳~79 歳を除き、40%以下となっています。

・「60 歳で自分の歯 24 本を以上持つ人の割合」「12 歳以上の一人平均右派数」は、平成 23 年度から毎年目標をクリアしてきました。

・現在は、子どものむし歯は減少しているため、平均値を見るとすでに目標値をクリアしていますが、むし歯のある者とない者の二極化が新たな課題とな

っています。

２　これまでの取り組み

・１歳６カ月児、３歳児健康診査時や学校歯科巡回教室等の際に、保護者等への歯科健診受診についての普及啓発を行いました。

・市立保育園４，５歳児に対して集団フッ化物洗口を開始するなど、ライフステージに応じたフッ化物の利用を推奨しています。

・いつもでも自分の歯でおいしく食べられるよう、栄養との複合教室を開催したり、生涯現役フォーラムで口腔機能キャンペーンを実施しました。

・ライフステージにあわせた健康教室や保健所健診センターで実施している成人歯科健康診査で歯科疾患が全身疾患に関連することを積極的に周知しました。

・内科的な健診と同様に、歯科健診も年に 1～2 回は欠かせません。

・過去 1 年間に歯科健診を受けた人の割合は上昇しており、歯科健診を受けることが広がっている兆しがみられます。歯科健診をきっかけに、かかりつけの歯科医院を持っておくことは、生涯にわたって歯と口の健康を保っていくためにとても大切です。

引き続き、目標値を目指して普及啓発を図りたいと考えます。

３　今後の評価指標・目標値

・「60 歳で自分の歯を 24 本以上持つ人の割合」はかながわ健康プラン 21 の平成 34 年度の目標値が 85％であることから、本市においても同様に目標値を 85％とします。

・「12 歳以上の 1 人平均う歯数を 1.0 歯未満とする」は、平成 27 年 12 月の「横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子」が作成された際、健康増進計画の目標値はすでに達成していることから、新たな目標値として「神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進事業」の中で目標値の 1 つになっている「12 歳児でむし歯のない者の割合」と同様に 75％以上としたため、評価指標・目標値を変更します。

・「過去 1 年間に歯科健診を受けた人の割合」は目標を達成していないので、変更しません。